

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：横浜市和泉保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：中村 美穂	定員（利用人数）：107名	
所在地：〒245-0016 神奈川県横浜市泉区和泉町5731-6		
TEL：045-803-1105	ホームページ：	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1979年06月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市		
職員数	常勤職員：19名	非常勤職員：31名
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：44名	社会福祉主事：1名
	幼稚園教員免許：26	介護福祉士：1名
	小学校教員免許：1	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	産休明け児保育室1室	事務室
	0歳児保育室1室	厨房
	1歳児保育室1室	育児支援室
	2歳児保育室1室	調乳室
	3歳児保育室1室	遊戯室
	4歳児保育室1室	園庭
	5歳児保育室1室	プール
		幼児トイレ
	乳児トイレ	

③理念・基本方針

<理念>

地域に支えられながら、園児も地域の親子もいきいきと過ごせる保育園

<保育方針>

1. 安心して自分を表現できるように保育する。
2. 自己肯定感がもてるように保育する。
3. 人と関わる心地よさを感じられるように保育する。

<園目標>

1. よく遊ぶ子ども
2. 思いやりのある子ども
3. 思いを表現する子ども

<保育姿勢>

1. 子ども一人一人が楽しい園生活を送れるよう、保育士自身が健康で明るく豊かな感性と心の安定を保つ。
2. 保育士のきめ細やかな対応と落ち着いた雰囲気の中で、情緒の安定を図り、発達につなげていく。
3. 子ども一人一人の要求を保育士が丁寧に受け止め、集団の楽しさや喜びを知らせる。
4. 保護者との関係を築き、ともに子どもの成長を喜び合う。
5. 地域社会との交流を広げともに歩いていく。

④施設・事業所の特徴的な取組

●横浜市和泉保育園は、昭和54年に定員102名の規模で開園しました。平成7年6月より産休明け保育指定園となり、平成9年には育児支援センター園に指定を受け、現在、定員107名にて円滑化枠として13名の子どもたちを受け入れ、保育しています。今年で開園42年目となり、地域での役割・機能を発揮し、地域に根ざしている保育園です。

●一人ひとりの子どもたちの気持ちや意欲を大切に生活や遊びが主体的に、そして保育士や様々な人と関わる心地よさを感じながらいきいきと生活できるように保育しています。現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための新しい生活様式に沿って子どもたちが安心して生活し、友達や保育士とゆったり遊びを楽しめるように職員間で話し合いを重ねながら保育をしています。行事についても工夫しながら行ったり、ドキュメンテーションや保育写真の掲示を通して保育の可視化に努めたり、コロナ禍ではありますが保護者との連携も工夫しています。

●泉区の保育資源ネットワーク事務局園として、泉区内の保育・教育施設の子ども達同士の交流や職員研修の企画・実施をして、保育・教育施設をつなぐ役割を担っています。さらに育児支援センター園として、地域の親子も園庭・施設開放、育児相談、育児講座、交流保育等を、気軽に利用できる場となっています。また一時保育は多くの利用があります。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年05月27日（契約日） ～ 2022年01月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

【横浜市和泉保育園の概要】

●横浜市和泉保育園は昭和54年6月1日に開園し、相鉄線いずみ野駅から徒歩3分と非常に便が良い場所に位置しています。定員は0歳児から5歳児まで合計107名です。現在は、全ての年齢児で定員超過しており120名在籍しています。保育サービスは、乳児・幼児保育、産休明け保育、障害児保育、延長保育、一時保育を行っています。園周辺はマンション等や畑に囲まれ、豊かな自然環境に恵まれています。

●保育園の造りは平屋建てで、園舎の南面に園庭があります。保育室は園舎の南側に位置しており、採光も良く、保育室前のテラスからは直ぐに園庭に出て遊ぶことができ、異年齢の関わりも自然にできています。子どもたちは園庭で伸び伸びと体を動かし、遊び込めることがこの園の特徴の1つです。保育園と地域との関わりも活発であり、地域のイベントに参加したり、高齢者施設と交流を図り、地域ボランティアと共に活動（土作りから花や野菜の栽培、お話し会、マンダリンの披露等）を行う等、親交を深めています。また、近隣の中学校や高校から職業体験もたくさん受け入れ、乳・幼児との触れ合

い体験を広めています。

◇特に評価の高い点

1. 【一人ひとりの子どもの良さを発見し育てる保育の推進】

●調査当日観察時、0歳児は、歌や音楽に合わせて保育士と微笑み合いながら体をゆらしたり、手をつないで踊ったりして楽しんでいました。5歳児は、11月に予定されている運動会の竹太鼓を練習中で、竹太鼓を打つ子どもとソーラン節の振り付けで演舞する子どもたちの姿は賑やかな一体感を醸し出していました。横浜市和泉保育園では、「よこはま☆保育・教育宣言」（1. 「安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します」、2. 「子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします」）を保育の拠り所とし、何れも「幼児期の終わりまでに育てたい姿10項目」、「育みたい資質・能力の3本柱」が育成される要素となっており、宣言の末尾は、「一人ひとりの子どもの姿に驚き、良さを発見することで、受容的・応答的に関わり、信頼関係が生まれる」とあります。職員はこれらに沿い、一人ひとりの子どもの良さを発見し、育てる保育に取り組んでいることを視察でも確認ができました。

2. 【たのしい食育活動の推進】

●食育の一環として、園庭の周囲に大きなプランターを並べ、年齢ごとに野菜等の栽培活動を行っています。2歳児の栽培活動では菜の花の種まきの体験を行い、子どもたちが種を土の溝に落とし、じょうろで上手に水をかけ、成長を楽しみます。5歳児は、当番活動の中で3色食品群食育ボードにその日の献立の食材を貼り、毎日の栄養バランスを理解しています。横浜市和泉保育園では、食育計画を全体的な計画に掲げ、年間指導計画、月間指導計画、週・日案に組み込んでいます。また、保育カリキュラムとして給食の材料となる野菜の皮むき等を手伝い、触感や匂い等、五感で食材に触れる体験により、食への関心を高めています。活動を通して苦手だった食材も食べてみようとする意欲が芽生えています。楽しい食育活動で食べたいもの、好きなものが増える子どもを育てています。

3. 【地域との交流・地域貢献の推進】

●横浜市和泉保育園の理念は、「地域に支えられながら、園児も地域の親子も、いきいきと過ごせる保育園」と謳っています。園は、地域との関わりが盛んであり、地域のイベントに参加したり、地域ケアプラザや高齢者施設と交流を行い、地域ボランティアと共に活動を行う等、地域に開かれた保育園として長年地域に根差し、良好な関係が築かれています。また、市の資源循環局（サツマイモの栽培等）や消防署と交流を図り、園は地域の資源として親しまれています。さらに、地域貢献活動を行い、育児支援センター園として育児支援専任保育士がおり、一時保育、園庭・施設開放、育児相談、育児講座、交流保育等、地域の子育て親子が気軽に利用できる場を提供しています。そして、泉区の保育資源ネットワーク事務局園として活動を行っており、ネットワーク専任保育士が、泉区内の保育・教育施設の子ども同士の交流や職員研修の企画・実施、園児のイベント参加の調整、地域のイベントの手伝い等を行い、地域貢献に尽力しています。

◇改善を求められる点

1. 【保育園運営のICT導入】

●横浜市和泉保育園では、保育方針・保育目標の保護者への周知について、ポスターにして具体的に視覚化し、噛み砕いて周知しています。また、保育の内容伝達は、乳児クラスでは個人連絡票の利用や送迎時に直接口頭で子どもの様子を伝え、4歳、5歳児クラスでは毎日ドキュメンテーションを掲示しています。しかし、第三者評価の保護者ア

アンケートでは、保育方針・保育目標について、園の様子等の情報提供等についての満足度は比較的低い結果となっています。今年5月より、試験的にICTアプリコドモンを導入し、現在は、緊急時の一方向メール伝達的手段として活用しています。ICTは業務での活用の幅も広く、短縮した職員の事務時間を保育に充てられるようになったことで、保護者との情報共有が容易になり保護者の不満が解消されている事例もあります。今後、横浜市公立保育園全園でICT化が進展することを期待すると共に、ICT化に関する勉強会や研修機会等、全職員がICTを有効活用でき、業務の実効性の向上につなげていくことを期待しております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 横浜市和泉保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

和泉保育園は、平成20年度、28年度に続き、今年度3回目の第三者評価を受審しました。日々の保育の振り返りのよい機会と捉え、全職員の共通理解と保育の質の向上を目指し、計画的に取り組んでまいりました。

昨年度より一人ひとりが自己評価を行い、その後グループに分かれての話し合いを積み重ねる中、全員で率直にたくさんの保育の話をすることができました。第三者評価受審へ向けて取り組むとともに、昨年度からの新型コロナウイルス感染症の中での保育を振り返るきっかけとなり、子どもの育ちに本当に必要なことは何か、和泉保育園のよさや地域での役割、これから見直していくこと等、保育の原点に戻って見直すきっかけとなりました。

今回の第三者評価受審で、一人ひとりの子どものよさを育てる保育、食育活動、地域交流、育児支援センター園、保育資源ネットワーク構築事業事務局としての役割を評価していただいたことや、保護者アンケートにおいて満足度が高かったことは、職員にとって大きな励みとなりました。併せて改善点もご指摘いただきましたので、職員皆でしっかり考え、子どもたちや保護者の皆さまの声に答えられるように課題解決に努めてまいります。

そして、今後も子どもたちが地域で自分らしく健やかに成長していけるように、「子どもの最善の利益」のために、職員一同、チーム力を大切に保育の質の向上に努めていきたいと思っております。

お忙しい中、アンケートにご協力いただきました保護者の皆さま、そして評価機関関係者の皆さまには大変丁寧に評価をしていただきまして、感謝申し上げます。

<評価後取り組んだ事として>

1. 第三者評価を含め、今年度の保育の取組みの振り返りを行う計画をたてました。
2. 保護者アンケートより改善点（保育内容の周知、保育理念等の周知、防犯対策等）について検討していきます。
3. 来年度からのICT化の本格導入に向けて、実施可能なことを検討しています。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり